

令和6年10月27日（日）

《午前》第13期Aコース研修生 「日本の伝統文化」

《午後》第13期Bコース研修生 「日本の伝統文化」

この研修の目的は、日本の伝統や文化とその価値に対する理解を深めて、国際社会に生きるものとしての自覚と自国の文化に対する誇りをもつ契機にすることです。

まず、NPO日本文化体験交流塾副理事長の山口和加子氏から、茶道、華道、書道などの日本の芸術の基本的な考え方や、これをどのように外国人に伝えるか、英語で講義を受けました。講師は茶道、華道、書道の師範であり、通訳案内士として長年、日本文化の精神性を英語で発信する活動に取り組まれてきました。伝統・文化というテーマを身近な視点から分かりやすく語っていただきました。

次に、日本が昔から大切にしてきた、ものの見方、考え方、感じ方、美意識を学び、日本の伝統・文化の良さを改めて認識するという目的で、「茶道」「華道」「浴衣の着付け」の体験学習をしました。この研修は、研修生が留学先で日本の伝統・文化について説明する手掛かりになるように、全て英語で行いました。

日本の伝統・文化の一部を知ること、振り返ることにより、日本の伝統・文化をより知ろう、学ぼうとする契機になる研修でした。



NPO日本文化体験交流塾
副理事長 山口和加子 氏



《左から、茶道、華道、浴衣の着付けを体験する研修生の様子》

令和6年10月27日（日）《午後》

第13期Aコース研修生 「ゼミナール②」



《ゼミナール研修を受講する研修生の様子》

2回目となる今回は、第1回ゼミナール研究で行った「都立中央図書館で学ぶ！はじめてのレポート・論文作成ガイド」を活用して確認した事柄（適切な研究テーマの設定、情報収集の方法など）を踏まえ、各自が作成した研究アウトラインをグループで発表し、内容について協議しました。

発表及び協議は、一人 15 分ずつ行い、次のように進められました。

- (1) 「①研究テーマと研究の目的」「②研究仮説」「③現状」「④課題」について一人ずつ発表する。
- (2) 発表にグループのメンバーが<問題点・疑問点>を赤の付箋紙に、<優れた点等>を青色の付箋紙に記入する。
- (3) 発表者は記入された付箋紙を台紙にまとめ、記入者が説明する。
- (4) 発表者は疑問点について答え、グループ全員で改善点等について意見交換する。

また、研究仮説についても発表、協議したことで協議内容がより充実したものになりました。例えば、研究仮説は研究テーマ・研究の目的に照らして適切か、研究仮説をどのように立てるとよいか、また、現状や課題の捉え方に不足はないか、など、十分に時間を使って話し合うことにより、今後のゼミナール研究の深まりにつながるものになりました。

研修生は今回の協議を通して学んだことを振り返り、「ゼミナール研究振り返りシート」に「①発表・協議で学んだこと」「②今後の取組」「③研究テーマ・副題の見直し」について、各自が記録として残しました。「ゼミナール研究振り返りシート」には、どの項目においても、端まで余白なく記入している様子が見られ、真剣に取り組む様子がうかがえました。